

十津川村

森林を活用したアウトドア施設「空中の村」の建設



「空中の村」

1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 十津川村は、総面積の96%を占める森林資源を循環再生する観点からも6次産業化を推進。
- ② 林業従事者という働き方だけでなく、観光業の視点から森林を活用したレクリエーションといったニューツーリズムに取り組むことで、多様な働き方にあわせて「しごと」を続けられることを目指す。

例) 夏季 空中の村管理
冬季 森林従事者やサービス業

2 取組の概要

- アート×アスレチック×憩いの場を融合させた、全く新しい森での過ごし方が楽しめるアウトドア施設。
- 村有施設であった「21世紀の森・紀伊半島森林植物公園」を活性化する目的も兼ね、フランスの技術を駆使し、木々の間に設けられた網の吊り橋や十津川産材を使用した木製のプラットフォーム、網で作られた憩いの場を行き来しながら年齢を問わず誰でも、空中で森林浴を楽しめる。
- 地上4～12mの高さに位置する、宙に浮いたような空間でお弁当を食べたり、読書やお昼寝をしたり、新鮮な空気を胸いっぱい吸い込んでリラックスできる場所。
- 施設内には、十津川の木材をふんだんに使用しており、園内のベンチや遊具はもちろん、遊歩道には、十津川産の間伐材のチップを敷き詰めています。

3 取組の効果 または 苦労した点や今後の課題

- 元地域おこし協力隊が起業し、管理運営会社を設立。
- 従業員として2人雇用。
- 2020年4月オープンのため、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた。
- 公園内でのイベント、ワーケーションの受入を充実させ、更なる誘客を図る。

詳しくは 空中の村ホームページ <https://kuuchuu-no-mura.com>

十津川村

十津川の木にこだわった、木工・家具振興



ギャラリー「KIRIDAS」



KIRIDAS GRIDシリーズ

1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 安価な外材の影響で、原木単価が低下した現在において、素材生産量を向上させるだけでは村内における経済効果は少ない。
- ② KIRIDASは、村内で製材・加工を行い、付加価値の高い家具（製品）を販売することによる高収益化を実現し、雇用を創出するだけでなく、十津川村の林業を外に広めていく「6次産業化」の拠点として役割を担う。

2 取組の概要

- 平成23年度から家具デザイナー岩倉栄利氏のデザインと展示等の支援を受け、十津川村の家具ブランドとして「TOTSUKAWA LIVING」をスタートさせた。
- 木工家具職人として、県外から地域おこし協力隊として受け入れ、独立に向けて技術習得と向上に励んだ。
- 森林組合の木材加工場をリニューアルし、木工家具のギャラリー&カフェ「KIRIDAS」をオープンさせた。
- 現在、KIRIDASのオリジナルブランドとして「KIRIDAS GRID」シリーズをリリースさせた。

3 取組の効果 または 苦労した点や今後の課題

- 地域おこし協力隊 3人が定住。
 - H24 地域おこし協力隊 ⇒ 独立H27
 - H27 地域おこし協力隊 ⇒ 独立H30
 - H29 地域おこし協力隊 ⇒ 独立R2
- * 上記3人は、任意団体「十津川木工家具協議会」として活動
- 家具の購入補助制度があり、一定の需要があるが、自立できるかが、今後の課題である。

詳しくは KIRIDASホームページ <https://kiridas.jp>